

## 二．教育研究組織

学部・大学院などの教育研究上の組織の適切性、妥当性

### 1．学部・大学院研究科を中心とした全体構造

#### 【現状】

本学は、教育研究組織として、医学部医学科、大学院医学研究科があり、他に附属病院、附属図書館、先端医学研究所、生涯教育・地域医療センター、学生部、教養部及び事務局から構成される。また、和歌山県伊都郡かつらぎ町に附属病院紀北分院がある。

平成11年に、それまで和歌山市九番丁、同七番丁にあった医学部及び附属病院と、和歌山市弘西にあった進学課程が現在の和歌山市紀三井寺に統合移転した。

その際、旧来の進学課程を廃し、教養部とし、また、付置施設としてあった、応用医学研究所を改組転換し、先端医学研究所とした。また、附属病院の新築、ベッド数の増床、診療科及び中央部門の新設に伴い、教員定数の見直しが行われた。

これらにより、それまでの教員定数276名（学長1、進学課程17、基礎50、附属病院174、紀北分院18、共通施設1、応用医学研究所15）が新たに286名（学長1、教養教育12、基礎48、附属病院194、紀北分院21、共同利用施設2、先端医学研究所8）と、総数で10名の増員がなされた。

学生定員は1学年60名であり、6学年で360名となっている。現員は平成14年4月1日現在、1年次60名（うち女子26名）、2年次64名（21名）、3年次58名（23名）、4年次71名（20名）、5年次51名（26名）、6年次64名（26名）であり、合計368名（142名）となっている。

平成14年度の推薦入試、前期試験及び後期試験の入学志願者の合計数は516名であり、うち第1段階選抜合格者は320名、受験者は261名であった。合格者60名のうち和歌山県内生は22名となっている。

大学院医学研究科は4年制の博士課程であり、大学院生定員は1学年31名、4学年で124名となっている。現員は平成14年4月1日現在、1年次30名（うち女子5名）、2年次27名（10名）、3年次14名（2名）、4年次15名（3名）であり、合計86名（20名）となっている。

#### 【点検・評価】 【長所と問題点】

統合移転整備に際し、平成11年に進学課程を廃して教養部を設置したが、それに伴い、カリキュラムについても、それまでの1、2年次を進学課程として教養教育を行い、3年次以降に医学専門教育を行う形のカリキュラムから、6年一貫の医学教育のなかで、教養教育、専門教育を行う形でのカリキュラムに改められ、その後も適宜見直しが行われている。

大学院については、昭和50年に入学定数を1年次31名、総数124名として以来変更されていない。

大学院入学者は定員に満たない状況が続いていたが、漸次増加傾向にあり平成15年には100%まで増加した。

博士学位記の授与件数については、総数が平成13年が27人、12年が54人、11年が33人、10年が36人中、大学院修了者が13年7人、12年15人、11年12人、10年16人となっており、大学院修了者以外の学位記授与件数の方が各年次とも上回っている。

これは、本学の使命としての地域医療への貢献のため、地域での医療に携わりながら研究を続ける者が多いということが原因と考えられるが、大学院入学者数は漸次増加傾向にあり、さらに大学院充実の方策について検討を行なっている。

平成11年、本学の高度総合診療能力と教育研修機能及び高度情報機能を駆使して、地域医療に従事する医師その他の医療従事者の生涯学習の充実に寄与するとともに、地域の保健医療及び福祉の向上に資することを目的に、生涯研修・地域医療センターが設置された。

この生涯研修・地域医療センターのセンター長は本学の部局長として位置付けられ、本学の教授が兼務発令されており、非常勤の事務職員1名が配置されている。

運営に関しては、和歌山県立医科大学生涯研修・地域医療センター運営協議会（運営協議会）が設置され、医療行政、医師会、歯科医師会、薬剤師会、医療関係団体、本学の同窓生及び本学の代表で組織されており、さらに、この下部組織として和歌山県立医科大学生涯研修・地域医療センター実務委員会（実務委員会）が置かれ、実務委員会の企画、実施のもと、医療従事者や地域の県民・住民の方たちに最新の医療情報を提供するための『「最新の医療・研究」カンファランス』や、和歌山県下に存立する和歌山大学、高野山大学とともに各大学の特性、特色を生かした学術成果を公開し、広く県民に生涯教育の機会を提供するための『三大学共同公開講座』、地域保健推進特別事業等の事業を実施している。

#### 【将来の改善・改革に向けての方策】

本学が県立大学であるという性格上、本学の重要な使命として地域の保健医療への貢献がある。

これは、和歌山県の保健・医療を担う医師・看護師を養成し、人材を供給し、その資質を向上させることにより実現を図るものであり、このことを通じて本学の社会的存在価値や存在意義を高めていくことが求められる。

教育研究組織についても、本学の使命とその時代の要請に応えるために見直し、改革を行っていく必要があるが、具体的検討として以下の点があげられる。

(1) 平成16年、本学に併設の看護短期大学部が3年制から4年制の学部編

成となることに伴い、本学の組織についても検討を行う必要がある。

このため、平成15年1月、学内に和歌山県立医科大学組織検討委員会を設置し、検討を開始している。

- (2) 平成16年には医師の卒後研修が2年間の必修となるが、これに伴い、卒後研修プログラムを視野に入れた、卒前教育の充実をはかっていく必要がある。
- (3) 本学の重要な使命である、和歌山県内のへき地を含めた地域への医師の供給の拠点となるべき組織の検討や、医師、看護師、コ・メディカルの生涯教育の実践や病病連携、病診連携の拠点組織としての生涯研修・地域医療センターのより積極的な運営のための方策を検討する必要がある。